

## 中酪情報 No.524

2009年11月30日発行

毎号奇数月末発行

発行：社団法人 中央酪農会議

編集・発行人：前田浩史

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル9F

TEL：03-3219-2611（代） FAX：03-3219-2622

**ご意見・ご感想をお寄せください。**

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

## 宛先及びお問合せ先

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル9F

社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部

TEL：03-3219-2611(代) FAX：03-3219-2622

<http://www.dairy.co.jp/>

(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

## 編集後記

本号リレーコラムの執筆者である家串先生は、酪農には地球温暖化問題における被害者と加害者という2つの側面があることを指摘している。自然を相手に生産活動する酪農は、異常気象により騰勢を強める穀物価格にたびたび遭遇する一方で、異常気象の原因となる地球温暖化ガスの排出源にもなりうるという。

そこで乳牛に向かって、「ゲップを止める」、「ふん尿を排泄するな」とは言えないが、酪農の第3の側面、つまり温暖化ガスの発生源となるふん尿を土壌に還元することはできる。地球温暖化問題は、その実態を正確に把握することは難しい。しかし、酪農経営に対する大きな課題となっていく可能性は高い。

2008年に発生した穀物高騰の実情を見据えれば、経営の危機という被害者意識から脱却し、世界の食糧危機を回避するため、効率性の追求一辺倒ではなく資源の循環利用にいつそう配慮した経営への転換が必要であろう